

加工機に命を吹き込め
専攻科 ライブセミナー **ROBODRILL基本コース**

安心・安全・わかりやすさ

令和2年9月23・24・25日の3日間、今年度のSPH活動の目玉の一つとなる「数値制御ロボット研修」として、専攻科に導入されたロボドリルの特別研修が行われました。ロボドリルは、数値制御による高性能な小型切削加工機で、県内でも多くの工場等に導入されています。当初の計画では、ファナック㈱の研修施設「ファナックアカデミ」にて、宿泊を伴って行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、本校専攻科・機械工場を会場に、「ファナックアカデミ」とテレビ会議システムを繋ぎ、遠隔授業形式(ライブセミナー)での研修となりました。学生は一人一台のノートPCで、講師の先生の説明を視聴し、わからない事があれば、随時チャットで質問をすることが出来ます。また、挙手機能を使うことで、講師の先生に直接、音声と映像で質問することも出来ます。一人ひとりが、講師の手元の様子まで、じっくり見ることが出来たので非常にわかりやすい研修となりました。



学びの定着、それが大事

ライブセミナーでは一方通行にならないよう双方向的な仕掛けが用意されました。講義中に時折、指名されて意見を求められる場面があったり、およそ1時間に1回ずつ、その時間内の講義内容について小テストがあったりと、たとえ遠隔であっても、すぐそこに講師の先生がいるかのような進行がなされました。また講義の後は、専攻科に導入された実機を使って実際に操作をしながら、復習を行い、自宅に帰ってからは、その日の実施内容についてレポートを作成することで、この3日間で集中して、ロボドリルの基礎をマスター出来る取り組みとしました。



手に入る技術と責任

今回学んだロボドリルについて、機械系コースの学生は11月から始まる後期の授業、電子系コースの学生は来年4月からの2年次前期の授業で、実際の加工にチャレンジしていきます。今回のセミナーと合わせて、大変魅力的な技術をそれぞれが手に入れる事になります。そして、これらの技術を専攻科2年間の集大成となる「創造研究」において、どのように学生達が活用してゆくのか、今から非常に楽しみです。そして、今回のようなメーカー直伝のセミナーはSPHという特別な枠の中で行われています。そういった1期生としての責任を、一人ひとりが噛みしめるセミナーとなりました。



鮮やかな光を山梨から

開催前は難しそうだ、という不安の声もありましたが、セミナー後は技術力の向上を実感する感想が多く見られました。専攻科の学生達が社会に出て、今回の技術を使って、どのような新しい価値を創造するのか、果たして山梨発のイノベーションを起こすことが出来るのか、今後も輝く山梨の未来像を胸に専攻科は突き進んでまいります。

◎学生の感想(抜粋)

- ・入学当初から気になっていた憧れの工作機械を学ぶ事が出来て最高の3日間となった。使われている技術の高さにあらためて感動した。
- ・ライブセミナーではイヤホンで講師の先生のお話が聴けたので、より講義に集中することが出来た。テキストに載っていないような細かいノウハウまで教えて頂きありがたかった。
- ・毎日、セミナー後は学校のロボドリルを実際に操作することで理解が深まった。3日間の取り組みを通して、自分が新たなステージに立ったことを実感した。まだ未知の部分も多いが、あとは数をなると多くこなしていきたいと思う。



SPH川柳

削り出せ 我らの夢を ロボドリル